

統合型内部情報システム管理運用業務委託プロポーザル
第2次審査 システムデモンストレーション評価基準

章	提案項目	No.	記載内容	評価基準	目安
1	事務効率	1-1	業務の流れ	システムを利用してどのように業務を行っていくことができるか	現状と比べ効率的かつ確実に業務を行うことができる
					現状と同様の流れで業務を行うことができる
		1-2	効率	システムを利用することにより業務の効率化を図ることができるか	一部手順を変更する必要があるが業務遂行に支障はない
					手順の変更等が必要で業務手順の確立に多少の時間を要する
2	システム機能	2-1	機能	必要な機能が搭載されているか	大幅な手順の見直しが必要で業務手順の確立にかなりの時間を要する
					様々な業務で効率的に事務を行うことができる
					通常業務において効率的に事務を行うことができる
					特に現状と変わらない
					一部手順が増えるなど負担がやや増える
					大幅に手順が増えるため負担が増大する
		2-2	インターフェース	必要な情報が適切な場所に表示されているか	機能が非常に豊富で、システムに精通していなくても迷うことなく様々な場面でシステムを有効に使用することができる
					機能が豊富で、業務流れに沿って機能がわかりやすくまとめられており、システムを有効に使用することができる
					業務に必要な機能は十分備わっており、業務の流れに沿って機能がまとめられているため、システムを有効に使用することができる
					に必要な機能は備わっており、業務の流れに沿って機能がある程度まとめられているがわかりづらく、システムを有効に使用することはできない
					業務に必要な最低限の機能しか備わっておらず、業務の流れに沿って機能がまとめられていない
					画面が非常に見やすく、様々な情報が表示されており、関連情報も確認しやすい
2-3	操作	システムの操作を容易に行うことができるか	画面が見やすく、必要な情報が表示されており、関連情報も確認しやすい		
			画面が見やすく、必要な情報が表示されている		
			必要な情報が表示でき、複数画面を遷移しなくても確認できる		
			必要な最低限の情報しか表示されず、複数画面を遷移しないと確認できない		
			簡単な操作で迷うことなくシステムを利用することができる		
			迷うことなくシステムを利用することができる		
3	デモンストレーション	3-1	デモンストレーション	効率的で有用な運用ができるか	問題なく操作を行うことができる
					慣れるのに多少の時間を要するが、問題なく操作を行うことができる
					複雑な操作が必要で慣れるのに時間を要する
					より効率的で非常に有用な運用ができる
					効率的で有用な運用ができる
有用な運用ができる					
有用であるが非効率な運用が想定される					
有用な運用が難しい					